

令和4年度全国農業大学校等意見発表要旨

農業大学校名 沖縄県立農業大学校 学科名 園芸課程野菜専攻 学年 1年 氏名 なかね 中根 みすず

1 課 題

「地域に根差した継続できる農業がしたい！」

2 意見・提言

(1) 久米島で農業を志すきっかけ

私は将来、久米島で起業し野菜の生産と6次産業化を通じて地産地消に取り組み、島を農業分野から盛り上げていきたいと考えている。

久米島は、エメラルドグリーン的大海と真っ白な砂浜のビーチを有する自然豊かで観光地として人気の島である。島ではサトウキビをはじめ、甘藷や菊、繁殖牛の飼育など多様な農業が営まれている。

私は大阪で生まれ育ったが、久米島の離島留学制度を利用して久米島高校園芸科に入学し卒業後は島に留まり農業関係の会社に就職した。仕事で農家と関わるうちに、農産物の島外出荷時の輸送コスト負担、台風による欠航で生じる物流停滞の影響、農家の高齢化と担い手不足といった離島ならではの農業課題に気がついた。私はこのような状況をどうにかしたいと考えていたが、自身の農業の知識や経験不足を感じていた。そのような時、勤め先の社長から農業大学校への進学を勧められ農業大学校への進学を決めた。

(2) 私が目指す農業経営

農業大学校で学んでいく中で、農業を通じて地域を盛り上げ、地域や社会が抱える課題の解決に取り組んでいる素晴らしい経営者がいることを知り、次第に自分自身で起業し農業分野から島を盛り上げていきたいという目標を持つようになった。

私が目指す農業経営は、「地域に根差した継続できる農業」だ。例えば、6次産業化することにより廃棄されていた農産物の利活用が可能になる。そして、その加工品が特産物になれば久米島のPRにもなり、観光との連携や雇用の創出にもつながるかもしれない。また、久米島では海洋深層水と呼ばれる深海にある低温の海水の利用が行われており、農業分野でも研究が進められている。この冷たい海洋深層水を野菜生産に利用することができれば、夏場の島内の野菜不足を解消し、島外への出荷も可能になるかもしれない。私は将来、島の地域資源を活用した農業経営を行いたいと考えている。

(3) 将来の目標の実現に向けて

農業大学校ではプロジェクト学習の課題として、土着天敵と有機肥料を活用し化学肥料や化学農薬の使用量50%削減を目指したパプリカ栽培に取り組んでいる。将来は島の自然環境に配慮し、環境負荷を低減した栽培による付加価値の高い農産物の生産を行いたいと考えている。卒業後はさらに、経営管理能力の向上や6次産業化に向け加工技術を学び、自信がついたときに起業したい。

久米島のような離島で農業や経済活動を行うことはハンデが大きいですが、考え方や工夫次第で伸びしろのある島であると感じている。私は将来、島で暮らす人々のニーズに応えながら、島の外にも久米島の魅力や精神を発信できるような農業経営者になりたい。